

令和5年度(2023年度)第2回熊本・上益城地域保健医療推進協議会(要旨)

協議会名：熊本・上益城地域保健医療推進協議会
開催場所：熊本県医師会館 6階大会議室
開催日時：令和5年(2023年)11月27日(月)14:00~15:30
出席数(委員)：23名(内訳；熊本市13名、上益城10名)
※欠席者7名(熊本市3名、上益城4名)

議題1：【合同会議】熊本・上益城地域合同会議

【質疑応答】

加藤委員(会長・学識経験者・熊本市)

○圏域編は具体性がなく、ふわっとした総花的な記述が多い。

⇒圏域編は取組の方向性までの記載する県の方針であり、具体的な取組は別冊に記載している。(医療政策課・熊本市)

菊池委員(公募委員・熊本市)

○在宅医療の知名度が低いのではないかと。

⇒若い世代への知名度を上げるため、市政だよりやLINE、市民講演会、出前講座等による情報発信を強化していきたいと考えている。関係機関とも連携して啓発を行いたい。(医療政策課・熊本市)

○今後、健康危機が発生した時の具体的な手順については検討されているのか。

⇒具体的な内容や評価指標等については別冊に記載している。(医療政策課・熊本市)

○若い世代の肥満の割合が高い理由や受診率が低い理由等は把握しているのか。

⇒若い世代の肥満が多い原因について断言はできないものの、歩く習慣がない等の運動不足や食事の欠食等も一因として考えられる。

糖尿病リスクがある人が治療に結びつかない原因については、バックデータを持ち合わせていないが、糖尿病の症状があまりなく、日常生活に支障がないため、治療に結びつかない・治療を中断してしまうということが考えられる。(健康づくり推進課・熊本市)

議題2：【分科会】熊本地域分科会及び上益城地域分科会

<熊本地域分科会>

【質疑応答】

菊池委員(公募委員・熊本市)

○身体活動の推進で、健康アプリのさらなる充実とあるが、アプリの効果の検証はされているか。

⇒熊本健康アプリを作ってから3年以上が経過した。令和4年度の下半期に、健康アプリの「利用前」と「利用後」の歩数を比較しているが、ユーザーの方の一人当たりの平均歩数が1日当たり約700歩増えている。

国土交通省のガイドラインによると、1歩あたり0.065円の医療費削減効果があるとの試算がある。そのデータを参考にすると、医療費削減効果は、1日あたり47円ほどになる。

健康ポイント参加者数等で算出したところ、想定だが、年間8億円ほどの医療費削減効果になるのではないかと試算している。(健康づくり推進課・熊本市)

○健康危機管理に関する体制のところ、「対応、検証等を踏まえた」とあるが、この「検証」というのは、どこで、いつまでにやるのか、スケジュールを知りたい。それに合わせ、人材育成に関する訓練・研修の具体的なアイデアは、ある程度決まっているのか、これから作るのか、決まっていれば教えていただきたい。

⇒熊本地域分科会後の「熊本市保健衛生審議会」で事務局から説明あり。

現在、新型コロナウイルス感染症への対策及び対応の検証を行い、その検証を踏まえた熊本市感染症予防計画及び予防計画の実効性を担保する健康危機対処計画の策定作業を行っている。令和6年3月までに両計画を策定予定。人材育成のための研修や訓練等については、健康危機発生に対応するため国の感染症等の専門研修への参加、市での訓練実施等を計画している。

田中委員（県栄養士会・熊本市）

○特定健診について。熊本市は特に、集団検診と個別予約受診、みなしの区別がついていない人は多いと思う。予約をしたが健診を受けない人に対する、具体的な受診勧奨の方法は検討されているのか。

⇒把握できる部分の把握は行っている。今後は市民へのPRとしてAIを導入するなどして的確に健診等の情報を届けられるよう内容を検討していく。（国保年金課・熊本市）

○特定健診の個別受診で、当日保健指導まで受けられる制度になっているのか教えてほしい。

⇒現在は、当日保健指導まで受けられる制度での実施はしていない。しかし、健診当日に保健指導を受けられる方が、効果が高いと見込まれているため、今後、効果的な健診や保健指導についても検討していく。（国保年金課・熊本市）

堀田委員（市PTA協議会・熊本市）

○こどもの飲酒経験の調査について。喫煙経験があるこどもが小学生で2.3%、アルコールを飲んだことがある20歳未満のこどもは30%とあり、数の多さに驚いた。常習的にアルコールを飲んでいることが問題と考えるが、この調査では常習であるかそうでないか区別して調査されているのか知りたい。

⇒現在手元に調査票がないため、明確に回答できない。事務局を通じて返答したい。（健康づくり推進課・熊本市）

○こどもの喫煙・飲酒の調査結果は学校などに報告されているのか。

⇒健康づくり推進課の方から報告する機会はない。しかし、健康教育課が学校とやり取りしているのではないかと思われる。調べてコメントしたい。（健康づくり推進課・熊本市）

竹熊委員（県公的病院長会・熊本市）

○38ページの熊本市の救急医療体制の中の、初期救急の部分に休日準夜急患診療所という項目があるが、これは新しく地域医療センターと別に休日準夜の診療所を作るといふことなのか。

⇒現在、熊本赤十字病院に引き受けていただいている分を記載したもの。現時点で今後、新たに準夜の診療所を作るといふことではない。（医療政策課・熊本市）

○国民に医師の働き方改革は浸透していないように感じる。医療、特に深夜帯の医療の在り方について、熊本市がどういう形で広報していくのか、アイデア等教えていただきたい。

⇒現在もSNSや市政だより等で市民への広報を行っているところだが、4月から医療提供体制が厳しい状況になっていくことを市民があまり知らないことは十分認識している。今後、関係機関と協議しながら集中的に広報していきたいと考えている。（医療政策課・熊本市）

【ご意見等】

菊池委員（公募委員・熊本市）

○糖尿病対策について、知識があることとその行動を止めるのは別であり、行動を止める原因やトリガー（引き金）を把握し、対策に工夫がないと結果を出すことは難しい。研究としてどこかに依頼するなど、協力ができたらいいと思う。

○（先の熊本健康アプリの効果についての質疑応答を受けて）統計的な解析をして学会等で発表してほしい。解析にあたっては、関係機関等の人材にも協力してもらってはどうか。解析して成果を出されると非常に心強く、対外的にもアピールでき、熊本健康アプリを使う動機につながると思うため、ぜひ検討していただきたい。

加藤委員（会長・学識経験者・熊本市）

- 熊本市独自のエビデンスに基づいた、保健医療計画を立ててほしいと思う。ロジックモデルを動かすまでに PDCA サイクルを回さないといけない。プランニングをして、チェックをして、そしてもう1回見直してということが、作業として、今回のこの内容からあまり見受けられない。その辺をある程度明確にさせていただいた方が、今後いいと思う。
- 具体的な項目として、例えば災害医療だったら、災害医学の専門の方に聞くと、おそらく一番重要なのは、災害発生時のとりまとめ役をどこに置くのか、そこが仕事の役割分担を振り分ける、そして災害医療が得意な領域との連携で、お互いに助け合うような仕組みを事前に作っておくというアドバイスをよく受けると思うが、そういった情報をきちんと把握しておられるのかなというのが懸念材料で、やはり作成にあたって、いろんな情報をしっかりとって、エビデンスに基づいた政策が実施されていることが望ましい。

植村委員（市地域婦人会連絡協議会・熊本市）

- 地域住民への周知にもっと取り組んでほしい。私たちは年に3回、校区で防災訓練をしているが、災害時の医療体制を知らないため、反省会の度にドクターを配置してほしいと毎回言われている。また、在宅医療についても知らないという人が多い。行政の方は連携していくと言われるが、行政から団体にお声がけいただいたことは一度もないように思う。今後連携していくために、行政から地域に周知していただきたい。
- 健康教育が一番大事ではないかと思う。小さい時から外遊びを制限するような教育をしていては、将来的に問題が出てくると思う。計画にこどもへの健康教育を加えてほしい。

田中委員（県栄養士会・熊本市）

- 熊本健康アプリのインセンティブとして、さらに飲食店などでの特典が受けられたり、特典内容が増えたりすることで、利便性やメリットが増えることで、口コミなどからアプリの利用増加にもつながると考える。

<上益城地域分科会>

門岡委員（上益城食品衛生協会・上益城）

- 具体的な取組についての記載がないためぼんやりしている。具体的な取組や経過も含めて記載していただきたい。
- ⇒県の方針を踏まえて、具体的な取組は記載していないが、今後は実績や成果を報告する機会にお知らせしていく。（御船保健所・上益城）

大橋委員（上益城郡医師会・上益城）

- 救急医療やへき地医療等の特定の項目だけでもいいので、上益城地域独自の評価指標を出す課題等も明確になるのではないか。
- ⇒上益城地域として残した方が良い評価指標を検討したところだが、県全体として評価指標は載せない方針のため掲載していない。上益城独自の指標も検討しているため、ご意見をいただきたい。（御船保健所・上益城）

岩本委員（上益城郡歯科医師会・上益城）

- 歯科関係について、P68 評価指標⑨（むし歯のない3歳児の割合）、⑩（むし歯のない12歳児の割合）、⑪（進行した歯周病を有する人の割合）が関係してくる。特に成人期や高齢期は、歯周病が重要。評価指標として、実際の歯科健診受診者の数や割合を出すと思う。また、口腔機能評価についてもご検討いただきたい。

山下委員（山都町包括医療センターそよう病院・上益城）

- へき地医療や救急医療を継続するために、自治医科大学の医師、熊本大学の地域枠の医師、熊本大学の寄附講座の医師にこれまで通り応援に来ていただきたい。

大橋委員（上益城郡医師会・上益城）

○人材確保は、へき地や郊外だけの問題ではなく、全体的になかなか難しい状況。上益城地域に限ったことではないが、今後高齢者を支えていくうえで、人材不足は非常に重要な問題である。

住永委員（熊本県議会・上益城）

○そよう病院から熊本市内の医療機関に救急搬送することは時間かかると思う。その現状を教えていただきたい。

⇒そよう病院から熊本市内の病院への搬送は、1時間程度。救急車の出動件数は年間約200件、救急外来の受診者は約2,000人。24時間体制で受け入れをしており、当直医5人で対応している。医師が減ると、時間外と土日に診療ができない状況となる。その場合は、その救急車はすべて熊本市内の医療機関への搬送となる可能性があるが、それは現実的ではない。そよう病院で対応できない場合に、熊本市内に搬送するケースもあるが、大部分はそよう病院で完結できている。（山下委員・上益城）

後藤委員（上益城老人クラブ連合会・上益城）

○「20歳未満の喫煙経験者の割合」が小学校5・6年生で2.3%、「20歳未満の飲酒経験者の割合」も小学生で31%ということに驚いた。いずれも目標として0%を目指すということだが、家庭の協力が必要だと思う。

⇒御船保健所においても、薬物乱用防止の取組の一環として、中学校等で出前講座等を実施している。（御船保健所・上益城）

⇒理想論ではあるが、20歳未満の喫煙等については、0%を目指すを書かざるを得ない。小中学校等で取り組まれているが、小中学校の保健指導や健康教育の担当者を対象にした研修会を行い、教職員の指導力向上に努めていただく必要がある。児童生徒のみならず保護者の方に対しても飲酒のリスク等を説明する研修会の実施を県計画に記載している。（県健康福祉政策課）

宮崎委員（特別養護老人ホーム桜の丘・上益城）

○訪問介護事業者が、赤字のために閉鎖されている。甲佐町においても、ここ数年で訪問介護事業所が次々閉鎖し、自施設も含めて現在2か所となっている。在宅で生活する高齢者にとって、訪問介護は介護の第一歩であり、ヘルパーが担う部分は非常に大きい。訪問介護の担い手が少なく、高齢化しているため、上益城地域として各町とともにヘルパーの存続をぜひ考えていただきたい。

⇒上益城地域においてもヘルパーが不足していることを十分把握している。中には70代のヘルパーのみの事業所もあり、利用者がサービスを受けられない現状があることを市町村の担当者から伺っている。介護人材の確保はもちろんだが、元気な高齢者を増やすため、通所支援のサービスの普及啓発を図っている。ヘルパー等の介護人材の不足について、各町の担当者と意見交換を図りながら対応策について引き続き検討が必要。施設の方のご意見等もいただきながら一緒に検討していきたい。（福祉課・上益城）

森委員（熊本県食生活改善推進員連絡協議会御船支部・上益城）

○益城町における食生活改善推進員の活動の一環として「朝ご飯を食べましょう」という取組を事業の一つとして取り上げており、先日幼稚園を対象に料理教室を実施した。すると、お母さん達が思っていた以上に子ども達は料理が出来ていた。保育園や小学校に調理の補助として出向き、減塩等の話をすると、本当に一つずつだが、浸透していく。その他、高齢者サロンに出向き、防災食作りや味噌汁の塩分濃度の測定も実施した。

後藤委員（上益城老人クラブ連合会・上益城）

○「3歳児の朝ご飯を毎日食べる習慣がない」というのは、保護者の育児放棄のようなものか。

⇒若い世代の方で朝ご飯を食べない方もおられ、その影響でお子さんも食べる習慣がない場合もあるようだ。また、遅い時間に食事をし、朝からは食事が入らないということもある。一部には、子どもに食事を提供できない親御さんもいらっしゃると思う。様々な機会をとらえて、保育園や食生活改善推進員とともに、子どもだけでなく保護者も対象とした啓発が必要だと考えている。（御船保健所・上益城）

住永委員（熊本県議会・上益城）

○高齢者の介護予防として、元気な高齢者を増やす取組は実施されているか。
⇒各町でサロンや、要介護になる前の段階として、フレイル予防のために健康教室を開いている。週に1回以上の外出は介護予防に繋がるため、各町にてサロンや公民館での集まり等を積極的に展開されている。（福祉課・上益城）

後藤委員（上益城老人クラブ連合会・上益城）

○益城町の女性の平均寿命が全国で第2位だったため、次は、全国第1位の健康寿命を目指したい。老人クラブとしては、元気な人だけでなく動けない人にもスポーツの楽しさを味わってもらいたいと思い、輪投げを行っている。平均寿命だけでなく、健康寿命延ばすために、老人会としても取り組んでいるところ。
⇒とても良いことだと思う。平均寿命と健康寿命の差はできるだけ縮めていくことが必要。（大橋委員・上益城）

議題3：その他

※特になし